

---

# 一刀一閃振り返らず

マナフィニロ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

一刀一閃振り返らず

### 【NZコード】

N5078Y

### 【作者名】

マナファイ一口

### 【あらすじ】

世界の海、空に怪物が現れだして数百年これは一人の少年が武器と人の姿をとる武姫を扱い武姫を扱うセントルイス学院に入学するまでのお話。

## 譲れぬ誓い

突然だが、この世界には武姫ぶきと呼ばれる人がいる。（武姫のこと）人と考えないやつらもいるが・・・）

武姫とはこの世界の武器職人達が作つた武器に宿る生命だ、だから当然その数も少ない。なぜそんな話をするのかつて？

それは簡単俺が武姫を扱う姫装者ひあわしゃだからだ。

「・・・・！・・・様！・・・主様！・・・聞いてますか？」

美少女コンテストなるものが開かれれば間違いなく大和撫子部門一位を取れる容姿をした着物姿の少女が白髪の少年に向かつて声をかけている。

「ああ聞いてるぞ？少し意識がイツてたが。」答える少年

それに対しても隣を歩く少女が戸惑いを浮かべて聞く

「一式炒つてた？お料理のお話ですか主様」

「悪い、なんでもない（こいつは少しでも下品な表現になるとだめだつたな）」

「そうですか？聞いていたならばして貰ださい主様」少女が潤んだ瞳で囁く

「腰にさせつて？」

その一人の横を驚愕の面持ちで横切るおばあさん

「それは無理だつて」

その答えが不満なのか少女は落胆したよひにひづぶやきだす「私は主  
様に要らない子、ワタク  
シワヌシサマニ炒らない・・・」  
壊れかけていた

「おい！秋雨？」<sup>アキヤメ</sup> 焦つた少年の肩に手が掛けられる

「兄ちやん貰つておやつ」おばあさんだつた。片手が卑猥な形を作  
つている

「ちげえよーそつちじゅねーよ」年配者にタメの突つ込みを入れる  
少年

「主様、恥ずかしがらなくとも／＼私痛いのすきですし」 答える少女

「何でお前が答えたんだ秋雨わつとき俺がさつも思つた下品な々の氣持  
ちを返せ」

「何だ兄ちやんもやる気だつたんかいそりゃこんな体型の良い着物  
美人が相手じやね」相変  
わらず卑猥な手をやめないババアそれどこか今度は両手を使つて  
いる

「そんな気持ちはない」

「ないんですか？」れきつちも、「両手を大きく広げる悲しそうな

秋雨

「はえ？ でもあんた下品なやつ！」中学生みたいなことを言に出す  
ババア

「これほつちもつて割にはでかいなお前、おれも男だからなあること  
はあるが・・・（ババアは無視しよう）」

「あるんですけどー、じつぞー！」頬を染め着物の襟に手をかける秋  
雨に口笛を吹いて煽るババア

「やめろー！」叫ぶ少年はババアに事情を説明することに決めた。

「ばあさん事情を説明するから口笛をやめんなの手もだ。秋雨も落  
ち着け」

「説明もなにもヘタレ男のいいわけかい？ 苦労するねあんた」卑猥  
な手をやめ秋雨に声をかけるババア

「いえ主様はヘタレじゃありません……むしろカッコよくて……」  
「ひどない子、手放すんじゃなによあんた」ひと決めて言つて  
くるババア

「言われなくてもわかってるよ。とつあえず説明するぞ？」

「ほこほこの前に血口紹介とこいつかね。私は新田梅だ」

「俺は睦時<sup>むつじぐれ</sup>雨姫装者<sup>だいひ</sup>だ。ちのちは天秋<sup>あまあき</sup>雨日本刀<sup>ささめ</sup>の武姫<sup>。</sup>

「誰ともやれこへて・・・・」やつから時雨を止め続ける秋雨

「やうこひ」とかい 納得した様子のばあさん 「最近はヤツテル姫装者と武姫は多いからあんたらもやつちまいなさい」

「だからちがえよ。腰に刀にして差しつてくれって意味だったんだよ。」先ほどより鋭い視線で睨む少年 「わかつとる。冗談じゃよ」

「それにしてもばあさん驚かないんだな

「やつやワシみたいに歳とこりやこくら武姫が希少でも一人や一人くらこ見るわ

「やつか、ばあさんとの話も楽しそうだがんのせいで時間がなくなつたからな急ぐんだじやあな（あやしいばあさんだな）こくぞ秋雨」

「刀を振るう時の主様なんて・・・・はえ?あ、はい。おばあさんいきがんよつ

「いわげんよつお嬢ちゃん。最後にひとつ時雨やなぜお嬢ちゃんを差せるのじや?」

「ん?決まつてるだろ武姫は武器である前に人だからだよ

「せうか、おかしな」と聞いたな。今度こそやがれまつせ

「ああ、やぶなら

「ふふ」微笑む秋雨

「何がおかしいんだ？」

「やつぱり時雨様はやさしいですね」

「そんなことねーよ。時雨様って？主様じゅうじやん？」

「話せらうせなこでくださー。どーがやせしかとこいつじですね~」

「別にやうしてねえよ」

「やうですかでどーがといふと、主様が行くぞって仰ってるのに私が歩き出しつからあるきだすといふんです。」

「意味わからんぞ？人が歩いてから自分も歩き出すのなんて普通だらう」

「やせしいか。少なくとも私は生きてきた中で武姫を迷いなく人と呼ぶ姫装者なんて見たことがないよ」仲良く去つていいく一人を見送る梅であった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5078y/>

---

一刀一閃振り返らず

2011年11月17日20時25分発行